みんなのスペース

ふくし ゆりか ちゃん
（大沢保育園・６歳）

わたしのゆめ

大きくなったら大沢保育園の先生のようなやさしい先生になりたいな。

古里への便り㉑

ふる里山田同郷の会幹事
東京都町田市
荒井美由紀（みゆき）さん（65歳）
〔大浦出身・旧姓門〕

まだ寒い季節です。山田の皆さまお元気ですか。古里を離れてもう四十五年になります。同郷の会では大勢の懐かしい方々にお会いし、古里のある自分を幸せに感じました。子供のころからカキむきやらワカメ干しと、家の手伝いをよくさせられました。父と母は八人の子供を育てるために一生懸命でした。でも昔は生活が苦しくてもみんな心は豊かでした。親の愛情をいっぱい受けて育ったことは、今でも実感としてあります。地域との関わりも深かったからでしょうね。

近況については、十年ほど前から知人の「書家」の影響で前衛書の墨の美しさに感動を覚え、生きがいとして目を輝かせています。春の東京都美術館への出展作に取り組むときは眠られないほど悩みますが、苦しみつつも楽しいひとときでもあります。

心に何かを感じたいとき、遠い古里を思い浮かべます。青い海、海岸で働いているだろう皆さんの姿…。自分も一緒にそこにいるような気持ちにさえなります。今は亡き父、一人で暮らしている母のまだ若く元気だったころの姿に望郷の念を熱くします。六十五歳になり、残された人生は新たな出会いを大切に、そして生きていることに感謝し、少しでも誰かのお役に立つことができればと思っております。

息子が幼いころ、山田湾の海のあまりの青さに「お母さんバスクリン入れたの」と、言ったことがありました。あのきれいな海がいつまでも失われることなく、海の幸に恵まれ心豊かで幸せな生活が続くことを心より祈りたいと思います。

投書

どんなことでも結構です。どしどしお寄せください。

山田湾を描いて三十年

私が山田湾の風景で新年のあいさつをするようになって三十年も経とうとしている。大島小島の浮かぶ山田湾を水彩で一枚一枚描くのは、視力の低下により二百枚は大変な労力である。

何年か前にこんなことがあった。年末に喪中のはがきが届いた方からの電話だった。「君の年賀状、今年はどんな山田湾が届くのだろうかと毎年楽しみでファイルしてとってあるので、一枚残っていないだろうか」とのことだった。一枚しか残っていない年賀状を封筒に入れ、ポストでなく郵便局まで自転車を飛ばしたことを今でも覚えている。今では私の年賀状を楽しみに待っている方が多くなった。うれしいことだ。

夏が終わるころから年賀状作りが始まる。絶景のポイント探しだ。次はスケッチ、今年は簡単に描こうと思いながらも色を重ねるうち、一枚目と二百枚目とではかなりの違いが出る。このシリーズは今回で終わりにしようと思うが、楽しみに待ってくれている方がいると思うと、夏が終わるころにはスケッチブックとカメラを片手に山田湾の海辺をブラつく自分がいる。今では私の生きがいにもなっているからあと二、三十年は続けるであろう。これを描かないと一年が終わらず新しい年が始まらない気がしている。小成ファンへのお礼であり元気でいる報告でもあるから。

昨年も私の年賀状を人一倍楽しみに待っている方の奥様から喪中のはがきが届いた。私が色ぬりをしている最中だった。悲しくも寂しくもあることだ。病気とのこと。ちなみに今年の私の年賀状は六角堂下の海辺から大島小島を描いた山田湾だ。文面は「賀正　病に負けてたまるか　本当の人生これからだ　平成十九年元旦」。

小成宗平（北浜町・62歳）

イラスト

移動図書館車「はまなす号」

本を返却する船越小学校の児童＝１月26日＝

使命終え38年の歴史に幕

38年間にわたり親しまれてきた移動図書館車「はまなす号」が、車両の老朽化などに伴い、1月31日をもって廃止されました。はまなす号は、町内どの地域の住民にも手軽に読書に親しんでもらおうと、町立図書館の開館と合わせて昭和43年6月に配備され、町内を定期的に巡回。2回にわたる車両の更新とともに本の積載数も当初の1,200冊から1,800冊に増え、昭和57年からは各小学校も巡回し、児童をはじめ多くの町民に親しまれてきました。運行の最終月は貸し出した本の回収のみが行われ、図書館職員が別れを惜しむ利用者から本を一冊一冊受け取り、はまなす号は動く図書館としての使命を終えました。

今年一年をしっかりと

新春インタビューの今年の干支（えと）の皆さんのインタビューを拝見すると、一年が経つのが早いなと感じます。皆さんのように私も今年の抱負を実現できるよう、一年をしっかりと過ごしていきたいと思います。今年も楽しい広報を期待しています。

匿名希望（飯岡・33歳）

余韻残る世代間交流会

新年を迎えたと思うと一月も半ばとなり、新たな年のトップを切って私の地区の恒例イベントである世代間交流会が行われ、多数の地区民が参加し盛り上がりを見せた。

去る一月十三日、船越公民館での催しであった。主催が自治連合会と公民館、共催が地区子供会、民生児童委員協議会、婦人会、文庫読書の会など、地区民総参加の意義深い交流会だった。老人の部から私も子供たちに昔遊びのこま回しや竹馬などの手ほどきをしてみたが、子供たちがいろいろな遊びにチャレンジするのを目の当たりにし、マスターの早さにびっくりした。

お楽しみタイムの餅（もち）つき体験やミズキ団子作りなどの後、会食で舌鼓を打った。第二部は保育園児の子供剣舞、小学生のご祝い手踊り、よさこいソーラン、そして婦人会の伝承芸能披露、なごみ出演、フィナーレの全員合唱で盛り上がり、午後二時ごろ終了。良い年を念じつつ若返り気分で足取りも軽く会場を後にした。いまだにあの日の余韻が頭から消えない。

かつて安倍総理が念頭に全国民に発信した「今年は美しい日本でありたい」との所信が、ふと頭をよぎった。企画された方々に感謝するのみ。

齋藤忠雄（船越・81歳）

◇　◇　◇

長月の空に響いた産声は
親王様の御誕生なり
菊地孝進（船越・84歳）

待ち侘びた孫の光で
モチ焼けて
あんこのごとく甘くなる爺
大町テイ子（大沢・?歳）

雪不足
除雪費儲かる温暖化
佐藤兼男（荒川・79歳）

新しき陽に満ちあふれ
夢叶ふ希望の光祈らんとする
大川ヒメ子（大沢・62歳）

夫婦喧嘩
口も利かずに三日半
客が来たればその振り見せず
ペンネーム・夢子
（田の浜・65歳）

岸壁の
小さな丘にぽっかりと
心和ます山茶花の花
ペンネーム・赤ちゃん
（大浦・69歳）